

高砂歴史ツアー 4

日本の鉄道網の発達により、高砂の繁栄の源であった加古川舟運は衰退しました。しかし、高砂の立地と豊富な水資源、そして地元住民の努力により、新たな産業が誘致されました。

国鉄高砂線跡地

この地域の鉄道の歴史は、1888 年に加古川で山陽鉄道（現在の JR 神戸線）が開通したことに始まりました。1889 年（明治 22 年）に高砂町が成立し、1901 年（明治 34 年）には神戸製紙株式会社（現三菱製紙株式会社）の工場が操業を開始しました。町には工場に勤める者のために 500 戸以上の家が建てられました。1906 年、すでに全国に 17 工場を構えていた鐘淵紡績株式会社が高砂に工場を開設しました。

鉄道の運行が増加するにつれ、1913 年 4 月に播州鉄道が加古川駅と国包駅（現・厄神駅）間で開業し、1914 年 9 月に播州鉄道が全線開通しました。これにより、高砂には製紙、食品やその他製造業などの大手企業が誘致されました。

1914 年に建設された日本国有鉄道（国鉄）高砂線は、加古川から高砂までを、国鉄、キッコーマン、三菱製紙の工場への専用線と共に走りました。高砂線は旅客、貨物ともに地域の重要な交

通手段として活躍しました。しかし、自動車の普及で乗客が減少し、1984年に廃止され、70年の歴史に幕を下ろしました。

魚町倶楽部

この木造2階建ての洋館は、三菱製紙高砂工場に勤務していた技師 M・J・シェイの社宅として1904年に建てられました。

この工場の前身は、アメリカ人のトーマスとジョン G. ウォルシュ兄弟が経営していた神戸製紙会社でした。父親が急死し、事業の継続が不可能になったため、1898年に兄弟の友人で事業の投資家でもあった岩崎久弥が会社を引き継ぎました。しかし、水不足と家賃の高騰を受けて、シェイは工場を神戸から高砂に移転することを勧めました。この住居は彼が転居後に住むために建てられたものです。

邸宅とその庭園は日本と西洋のスタイルが混在しています。約110平方メートルのこの敷地は、建設当時の価値が2,706円で、今日の約5,400万円（36万5,000米ドル）に相当します。シェイの引退後の1905年、稲荷神社に近い現在の魚町の場所に移転しました。現在は従業員のレクリエーションセンターとして利用されています。

出汐館

この建物は、1936年に鐘淵紡績高砂工場の管理するクラブとして建設されました。円弧状に突き出た階段、ステンドグラス、2階の出窓が特徴です。現在は株式会社カネカの保養所として使用されています。

旧朝日町浄水塔

この塔は1923年、当時三菱製紙と鐘淵紡績の2つの大手工場の進出により、安全な給水システムが必要になった高砂に水を供給するため、この類のものとしては初めて建てられたものです。鉄骨造りの塔の高さは26メートルです。これは高砂の水道の近代史を象徴しています。

1966年に工場の水源が変更され、塔は運転を停止しました。2003年には国の登録有形文化財に指定されました。